

「小樽市ふるさとまちづくり協働事業」 事業報告書

1 / 2

団 体 名	小樽石蔵再生会			
事 業 名	シンポジウム「小樽の石蔵は日本遺産にどう活用できるか」			
実施期間	平成 30 年 9 月 29 日(土) 15:00～17:00			
事業の目的及び期待する効果	<小樽市内に点在する石蔵を、日本遺産に活用されるように> 小樽の石蔵が、日本遺産の素材として活用されると、 ・現在、無関心の所有者の当会への参加誘導 ・公的機関の認識向上 ・郷土史や建築史の教育向上 といった効果が生まれ、維持するために再活用する様々なメニューが、小樽市内の観光や街並みに貢献することが期待できる。			
実施額	事業費	362,000 円	助成額	300,000 円
事業内容	<概要> シンポジウム「小樽の石蔵は日本遺産にどう活用できるか」 日時：平成30年9月29日(土)15:00～17:00 会場：小樽運河プラザ三番庫(小樽市色内2-1-20 TEL 0134-64-1672) 会費：無料 参加者：113名 (男性75名女性38名)内石蔵所有・使用者17名 <企画> 第一部：基調講演 15:00～15:55 講師 石川直章氏(小樽市総合博物館館長) ～文化財の視点から～ 第二部：パネルディスカッション 16:00～17:00 パネラー □官民協働の視点から 中崎岳史氏(小樽市産業港湾部主幹・日本遺産等担当) □地域資源の視点から 高野宏康氏(小樽商科大学学術研究員) □軟石の視点から 大鐘卓哉氏(小樽市総合博物館学芸員) □所有者の視点から 竹内勝治氏(小樽市総合博物館特別研究員) コーディネーター 石井伸和氏(NPO法人歴史文化研究所副代表理事) シナリオ 基調講演では、文化庁が推進する日本遺産の概要を学び、小樽の石蔵がどのような条件や枠組みで日本遺産認定で活用素材になる事が可能かを学ぶ。 パネルディスカッションでは具体的に、小樽の石蔵を日本遺産にするための物語性や建築的・歴史的価値、石蔵所有者の意向や抱える問題提起などを学ぶ。 以 上			

○内容が分かる「資料やチラシ等」を添付してください

○事業の日程について

2 / 2

月日	内容	想定事業効果 (参加人数等)	事業効果 (実績)
6月30日	石蔵再生会座談会(所有・使用者からの 情報収集)	_____	14名
9月29日	シンポジウム「小樽の石蔵は日本遺産に どう活用できるか」 開催	150名	113名

○事業評価について

<p>1. 事業の目的の達成度</p> <p>シンポジウムの集客の視点からは、113名(男75,女38)の方々に参加していただき、直近目標の100名を達成しました。</p> <p>目的視点からは、石蔵再生に向けた希望を発信し、「官民協働」の再生促進意識を、訴えることが出来ました。</p> <p>石蔵活用の多様性や交流性を重要視することを確認しました。</p>
<p>2. 参加した方々や、周辺の方々の満足度</p> <p>途中退席もなく、参加者全員が真剣に学ぶ風景となり</p> <p>またアンケート結果から、新たに小樽石蔵再生会参加希望者が6名誕生いたしました。</p> <p>あらためて小樽の石蔵の価値を確認し、「小樽は石蔵の街」づくりへの明るい展望を醸造しました。</p>
<p>3. 今後の事業について</p> <p>小樽石蔵再生会内部でのルーチンワークとして、各石蔵調査や、会員所有者のお悩み相談会を継続しますが、小樽市民対象として、新たな石蔵の魅力発掘を目的に、次回は「石蔵写真展」や「小樽石蔵再生パネル展」など様々なプログラムを検討した上での開催を予定しております。</p>
<p>4. 「小樽市ふるさとまちづくり協働事業」に関する要望事項等</p>